

平成29年度 千葉県立千葉中学校 学校目標及び自己評価

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート、保は保護者アンケート、生は生徒アンケート)			アンケート回答率			自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
				肯定的 回答	否定的 回答	わから ない等	肯定的 回答	否定的 回答	わから ない等		
学校経営	1 教育目標の具現化を目指して、校内組織の運営や教育環境の活用をより効果的に行い、創意工夫に富む学校運営にあたる。	① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。	① 職員アンケートの結果及び実施状況の把握	職①	組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。	50.0%	37.5%	12.5%	① 組織を機能的にするための取り組みや効率化のための工夫が行われたと考える職員が増え、一定の前進が見られたと言える。今後一層の工夫と普段からの教員間の連絡・連携が必要である。	① 今年度の取り組みを更に進め、組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。 ② 今年度発足した「中高一貫教育推進委員会」を核とした生徒・保護者・職員の、それぞれの立場に応じた具体的な連携の在り方を検討していく。 ③ 全県から生徒が集まる本校にとっては、かなり難しい課題ではあるが、文化的施設の活用や職場体験・ボランティア体験などを通じ、保護者・地域との連携を密にして、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。	
				職②	高等学校との連携を密に行い、よりよい中高一貫教育の実現に努める。	37.5%	50.0%	12.5%	② 開校10年目となり、4期生までが高校を卒業し、6年間や10年間の流れができあがった。一方で、アンケートの結果からは「中高一貫の特色を生かした教育活動」という点では十分とは言えない。10年目の節目を迎えた今年度は「中高一貫教育推進委員会」が発足し、よりよい中高一貫教育について具体的な検討を開始した。		
				職③	保護者・地域との連携を密にして、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。	50.0%	43.8%	6.3%	③ 地域の方々との関わりについては、生徒・保護者・職員ともに充分でないという意見が多く見られる。例年行われる1年次の千葉県立中央図書館の見学(昨年度と今年度は工事の関係で未実施)、や校外学習(千葉県立中央博物館)を通じ、文化的施設での学習機会をさらに充実させる必要がある。また、2年の職場体験や3年の高齢者施設を中心としたボランティア体験では近隣の事業所に受け入れをお願いし、よりよい学びの場の実現にむけて努力している。		
		生⑧	2 学校周辺地域(文化的施設)での学習や人々とのふれあい	生⑧	43.4%	56.6%		① 各教科の学習過程においては、主体的に対話的な深い学びを実現するために、実験・ポスターセッション・寸劇・プレゼンテーション・レポート作成を行うなど、各科目の特性に沿った活動を取り入れている。これらの取り組みによって興味関心を高め、理解の深まりへとつながるよう努めている。また、授業でのタブレットPCが使用できる環境が整ったこともあり、幅広い授業展開が可能となっている。			
				保⑨	1 学校は近隣地域との交流等を通して、開かれた学校づくりに努めている。	59.8%	26.2%		14.0%		
				保⑩	1 保護者への連絡や、保護者面談は適切に行われている。	91.7%	7.4%		0.9%		
		保⑧	2 学校周辺地域(文化的施設)での学習や人々とのふれあい	保⑧	68.6%	31.4%			② 教材研究の時間を確保するための方策を考え、実行し、思考を促す課題を工夫し、グループ活動等を通して互いの考えを交流することで、考える力を育てる授業を行う。		
				保⑨	1 家庭で、授業の予習・復習に取り組む習慣が身についている。	63.0%	30.6%				6.4%
				保⑩	5 学校は、揺るぎない学力を基礎として幅広く深い教養を育成する努力をしている。	93.9%	5.3%				0.9%
学習指導	1 基礎学力の定着を図りつつ、内容濃く水準の高い授業を展開する。	① 生徒の実態に即し知的的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業を目指す。	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職④	生徒の実態に即し知的的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業を目指す。	62.5%	25.0%		12.5%	③ 保護者や小学校の教職員対象の授業参観を年2回行った。5月は3日間、学年毎に実施した。9月については土曜日に行うことにより、より多くの保護者に授業を参観してもらった。その際には、本校の教職員も互いの授業を参観しよう努めた。また、県内外からの視察等に応じての授業公開も行った。職員アンケートでは、授業研究を通して授業改善を図っていることに肯定的な回答が増えた。	③ 千葉中学校での教育の柱である「授業」について、職員の共通理解を十分に図りつつ、特に授業研究等を通して更に授業改善を図る。今年度、土曜日開催の授業参観と教科別保護者会は好評であったため、来年度もよりよい内容で実施できるよう検討していく。
				生①	1 千葉中の授業は楽しい。	81.1%	17.6%		1.3%		
				生③	1 私は、授業に積極的に取り組んでいる。	83.0%	15.3%		1.7%		
	職⑥	2 思考を促す課題を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実現する。	② 職員、保護者によるアンケートの結果	職⑥	思考を促す課題を工夫し、グループ活動等を通して互いの考えを交流することで、考える力を育てる授業を行う。	68.8%	18.8%	12.5%	④ 保護者や小学校の教職員対象の授業参観を年2回行った。5月は3日間、学年毎に実施した。9月については土曜日に行うことにより、より多くの保護者に授業を参観してもらった。その際には、本校の教職員も互いの授業を参観しよう努めた。また、県内外からの視察等に応じての授業公開も行った。職員アンケートでは、授業研究を通して授業改善を図っていることに肯定的な回答が増えた。		
				保⑩	10 授業の方法、教員の教え方について満足している。	89.5%	7.5%	3.1%			
				生⑦	7 千葉中の授業はわかりやすい授業である。	84.6%	13.9%	1.5%			
	職⑥	3 授業研究等を通して常に授業改善を図る。	③ 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果及び研究授業や研修会等の実施状況	職⑥	授業研究等を通して常に授業改善を図る。	68.8%	18.8%	12.5%	⑤ 十分な準備に基づいた、生徒の知的的好奇心を喚起する授業が展開されている。		
				生⑦	7 千葉中の授業はわかりやすい授業である。	84.6%	13.9%	1.5%			
				保⑩	10 十分な準備に基づいた、生徒の知的的好奇心を喚起する授業が展開されている。	90.8%	6.1%	3.1%			
1 生徒の自主性を育てるとともに、集団の一人としての自覚と責任感を持たせ、他者へ配慮する心と態度を身に付けさせる。	① ゼミ・生徒会活動を通して、学習や行事等に対して自主的かつ積極的に取り組む姿勢を育てる。	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職⑦	ゼミ・生徒会活動を通し、学習や行事等に対して自主的かつ積極的に取り組む姿勢を育てる。	62.5%	25.0%	12.5%	① 課題の一つでもある「ゼミ・生徒会活動を通しての自主的・積極的姿勢を育成する項目」では、肯定的な回答が増えた。このことから、目標達成に向けての取り組みは進んでいると考えられる。一方でリーダーやフォロワー育成に関しては、職員は今後も働きかけの必要性を感じている。	① ゼミ・生徒会活動を更に活性化させるためには、今年度のように夏季休業中に行った研修会や会議の場での話し合いなどの機会を通じ、職員間の一層の研修や共通理解が必要である。		
			生②	2 総合的な学習の時間「ゼミおよび千葉中アカデミア」	79.8%	20.2%					
			生⑥	2 オリエンテーション合宿(1年) 遠足(2・3年)	90.5%	9.5%					
			生⑦	2 国内語学研修(3年生のみ)	91.0%	9.0%					
			生⑧	2 伝統文化学習(2年生のみ)	92.2%	7.8%					
			生⑨	2 文化祭	95.7%	4.3%					

生徒指導			生 2 ⑩	飛龍祭（体育祭・球技大会）	85.3%	14.7%		② 基本的な生活習慣や規範意識等を身につけさせるという項目については、職員アンケート結果では改善が見られたものの依然低い数値であり、生徒の回答した比較的高い数値との隔たりは大きく、この隔たりも改善していく必要がある。	② 学習活動や生徒会活動を通し、リーダーとして必要な基本的な生活態度や規範意識等を身につけさせるとともに、健全な批判精神を養う。
			生 2 ⑪	合唱コンクール（合唱祭）	88.5%	11.5%			
			保 1 ⑧	生徒は、学校生活に満足し、授業や行事に積極的に参加している。	95.2%	4.8%	0.0%		
			保 1 ⑩	学校は、授業や学校行事を効果的・計画的に進める努力をしている。	94.8%	3.9%	1.3%		
			職 ⑧	リーダーとして必要な基本的な生活態度や規範意識等を身につけさせるとともに、健全な批判精神を養う。	43.8%	50.0%	6.3%		
			生 ⑤	先生は、生徒の自主性、自律性を育てる努力をしている。	85.4%	10.7%	3.9%		
			生 ⑩	あいさつや時間を守るなど基本的な生活習慣や、マナーが身につくようになってきている。	80.0%	17.0%	3.0%		
			生 ⑫	清掃活動や教室の美化に積極的に取り組んでいる。	79.9%	17.9%	2.1%		
			保 ⑫	学校は、生徒の基本的な生活習慣や、マナー等について、その確立に努めている。	89.1%	8.7%	2.2%		
			職 ⑨	自他を互いに認め合うとともに、能動的なフォロアシップを育成する。	43.8%	50.0%	6.3%		
生 2 ①	友だちとのふれあい	91.9%	8.1%						
保 ⑥	学校は、他人のいたみのわかる、うるおいに満ちた人間性を育成する努力をしている。	83.0%	13.1%	3.9%					
職 ⑩	本校のキャリア教育のあり方について、職員、生徒、保護者間で共通理解を図る。	50.0%	37.5%	12.5%					
キャリア教育	1 本校のキャリア教育のあり方について共通理解を図り、キャリア教育の一層の充実を目指す。	① 本校のキャリア教育のあり方について、職員、生徒、保護者間で共通理解を図る。	保 ⑦	学校は、生徒の社会貢献の志を育み、自己を確立する基盤を育成する努力をしている。	88.6%	6.6%	4.8%	① 本校のキャリア教育のあり方については、職員のとらえ方は様々である。職員アンケートの肯定的回答は50%と低く、職員の5割が満足をしていない。担当している職員とそれ以外の職員との間に評価の差が表れているとも考えられる。	① 本校のキャリア教育のあり方について、生徒、保護者、職員間で共通理解を図る。職場体験や夏季ボランティアの事前指導、事後指導を充実させる。
			職 ⑩	近隣地域との交流を通して、社会の一員であることの理解を深めさせる。	43.8%	43.8%	12.5%		
			生 1 ⑫	近隣の地域をはじめ社会に目を向けることができる。	49.6%	42.3%	8.1%		
			生 2 ③	職場体験（2年生のみ）	82.9%	17.1%			
			生 2 ④	夏季ボランティア（3年生のみ）	78.2%	21.8%			
			保 2 ③	職場体験（2年生のみ）	90.7%	9.3%			
			保 2 ④	夏季ボランティア（3年生のみ）	96.2%	3.8%			
			職 ⑫	社会人講演会・職場体験・ボランティア等を通して、勤労観・職業観を深められるようにする。	68.8%	18.8%	12.5%		
			保 ⑨	大学の先生や企業の方などの講師による授業や体験学習	80.2%	19.8%			
			生 2 ②	総合的な学習の時間「社会人講演会」	62.6%	37.4%			
生 2 ⑨	大学の先生や企業の方などの講師による授業や体験学習	70.6%	29.4%						
特色ある活動	1 総合学習のゼミのまとめである「千葉中アカデミア」を充実させる。 2 3年間の総まとめとなる卒論を完成させる。	① 3年間を見通したテーマと研究方法を設定させ、継続的な学習支援を行う。 ② 各生徒の研究についての生徒の自己評価及び顧問の評価の結果	①	全体発表会の実施とその内容の評価				① 総合学習での研究を1年間とし、ゆとりをもって「千葉中アカデミア」に向けての準備がされている。これによって、生徒は調べ学習からレベルアップし、卒論へ向けての研究が続いている。しかし、生徒の中には温度差があり、研究を深められる生徒とそうではない生徒に二分されているのが現状であり、対策が必要である。	① 今年度の成果と課題を整理し、これからも継続して実施する。
			②	各生徒の研究についての生徒の自己評価及び顧問の評価の結果					